

岩見沢市議会
議長 篠原 藤雄 様

議員定数等検討委員会
委員長 峯 泰 教

議員定数等に関する検討結果について（答申）

令和4年4月19日、貴職から諮問のありました「議員定数のあり方について」、及び「議員のなり手不足の解消に向けて」に「議会の活性化について」を追加し、本検討委員会における検討・協議を行いましたので、下記のとおり答申いたします。

記

1 次期市議会議員選挙の議員定数について

議員定数は現行条例定数である「22人」とすることを答申とする。

ただし、今後の人口減少、交付税等の減額が見込まれる厳しい財政状況を勘案し、持続可能なまちづくりのための中長期的な視点に立ち、定数の削減は避けられない状況になると予想されるため、議員定数については、毎期毎に検討委員会を設置し、検証及び検討を行うことが必要と考える。

議員定数	主な理由
22人	<p>議会の役割（①市民の意思の把握・執行機関の監視、②積極的な調査研究・活発な審議・討議）を果たすという視点で議員定数を検討した。</p> <p>① 市民の意思を広く把握し、行政を適切に監視するためには、議員数は多ければ多いほど良いが、当市の財政状況や類似団体や全国の人口規模類似市との人口と面積の状況から比較し検討した結果、議会費の一般会計予算に占める割合は平成18年以降減少傾向で、道内市平均を下回っている。また、議員一人当たりに対する人口は約3,500人と類似団体平均とほぼ同数であり、議員一人当たり人口や議員一人当たり面積で全国と比較した結果、現行の22名は適切と判断する。</p> <p>② 本市議会は議案審査に委員会中心主義を採用し、活発な議論を行う人数は会議の参加者のそれぞれの当事者意識の薄れない7～8名を基準として判断し、現状の総務常任委員会（8名）、民生常任委員会（7名）、経済建設常任委員会（7名）の合計22名が現状では適正と判断する。</p>
<p>※人口減少に伴う高齢化や生産年齢人口の減少により社会保障費の増大に加え公共施設の更新などを控え、将来負担の軽減や持続可能なまちづくりのために中長期的な視点に立つと、定数の削減は避けられない状況になると予想され、少数ではあるが、議員定数を18人に減する意見もあったことから、議員定数については、毎期毎に検討委員会を設置し、検証及び検討を行うことが必要と考える。</p>	

2 議員のなり手不足解消に向けて

(1) 女性・若手議員の増加のために

- ・議会や議員活動への理解を得られるようにホームページなどで分かりやすく周知するとともに、青年団体や女性団体との意見交換会などの実施により議会への関心と理解を深める取り組みが必要であると考える。
- ・全国市議会議長会を通し、国等に対し、兼業禁止要件の緩和、育休・介護支援制度や供託金の減額など女性や若者が立候補しやすい環境改善に向けた法整備を要望していく必要がある。

(2) 投票率を上げるために

- ・議会活動の理解を深めるためホームページなどで分かりやすく周知するとともに、主権者教育を通じ小中学校や高等学校の学生の議会への関心を高める取り組みが必要である。
- ・投票所の土足化、移動投票所、期日前投票所の拡大など投票しやすい環境の整備を働きかけていく必要がある。

(3) 議員報酬の在り方

- ・専門議員としての生活保障は議員のなり手不足の解消の一助となると考えられるが、市の財政状況や市民からの議会や議員への評価、議員定数、類似団体比較などを総合的に判断すべきと考える。
- ・議会の活性化により市民から評価され、高い信頼を得ることが先決であると考える。

3 議会の活性化について

議員の資質向上を個々人の問題と片付けることなく議会の活性化に向け、質問の量・質の向上に向けた研修会の実施や常任委員会での議員間討議、市民や所管部署職員との情報交換などを行うことを検討し、能力の向上を図るべきであると考える。